

# いなべ市小規模事業者景気動向調査

(令和7年10月～12月の景況)

いなべ市商工会

## 1 調査概要

調査時期	令和7年12月
調査地域	三重県いなべ市
調査企業数	49社（内訳 サービス業8社 飲食業7社 卸・小売業14社 建設業8社 製造業12社）

### 2-1 総論

令和7年9月の調査では、製造業の業況の悪化が著しいという結果となった。また、どの業種においても、経費の高騰が大きな経営問題となっていることは変わりなかった。

一方で、日本銀行が12月15日に発表した12月の全国企業短期経済観測調査（短観）では、大企業・製造業の業況判断指数（DI）は3期連続で改善している。大企業・非製造業の業況判断指数はプラス34という高水準で横ばいを維持している。米国の関税政策に対する懸念がなくなり、円安が大企業の業績にプラスになっていることが要因とされる。このような大企業の業況と比べ、今期の中小企業の業況がどのように変化しているかが注目される。

このような経済状態のなか、令和7年10月以降の景況を、いなべ市内の小規模事業者から聞き取り、調査を行ったので、以下にその結果を報告する。

以下で「今期」とは令和7年10月から令和7年12月を、「前年同期」とは令和6年10月から令和6年12月を、「前期」とは令和7年7月から令和7年9月をいう。

なお、数値に関しては、増加（好転・上昇）と減少（悪化・低下）と回答した企業数を記載する。増加（好転・上昇）と減少（悪化・低下）と回答した企業以外の企業は不変（無回答）と回答している。

### 2-2 飲食業 7社

売上が増加傾向にある

(1) 売上（収入）額

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	3	2	2
減少	2	1	2

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	3	1	1
減少	1	1	3

来期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	1	2	1
減少	2	2	1

前期と比べ売上額は増えているが、来期の見通しは悪くなっている。

(2) 客単価

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	1	0	1
減少	0	1	1

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	1	0	1
減少	0	1	0

来期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	1	2	1
減少	0	0	1

客単価は増加傾向にある。

(3) 利用客数

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	3	2	1
減少	1	3	1

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	3	1	1
減少	0	3	1

来期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	1	2	1
減少	1	3	1

利用客数も増加傾向にある。

(4) 資金繰り

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	0
悪化	0	2	2

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	0
悪化	0	2	1

来期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	0
悪化	0	1	2

資金繰りは改善している。

(5) 採算（経常利益）

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	0
悪化	2	2	3

来期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	0
悪化	2	1	2

採算は前回調査時とほぼ変化はない。

(6) 業況（自社）

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	0
悪化	0	1	1

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
----	-------	-------	--------

好転	0	0	0
悪化	0	0	0

来期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	0
悪化	0	1	1

今期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	1	0
悪化	1	0	1

業況も前回調査時とほぼ変化はない。

#### (6) 小括

売り上げは増加傾向にあり、資金繰りは改善しているが、採算と業況は前回調査時とほぼ同じ状況である。

材料費の高騰をあげている企業がほとんどである。売り上げは増加しても、人件費や材料費で利益が圧迫されている企業が多い。客数の見込みが外れてしまうことが収益に影響してしまうという声があった。

### 2-3 サービス業 8社

売上は増加しているが、採算が悪化しているため、業況は悪い

#### (1) 売上（収入）額

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	3	3	2
減少	2	1	0

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	4	1	1
減少	3	3	2

来期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	1	1	2
減少	2	2	2

前期について、減少傾向にあった前回調査時と異なり、増加している。

(2) 客単価

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	3	2	4
減少	0	0	0

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	0	1	1
減少	0	1	0

来期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	3	2	4
減少	0	0	0

増加傾向にあるといえる。

(3) 利用客数

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	3	1	1
減少	2	2	1

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	4	0	1
減少	3	3	1

来期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	1	1	2
減少	3	2	2

前回調査時と比べ増加傾向にあるが、来期は減少すると回答する企業が多かった。

(4) 資金繰り

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	1	1
悪化	3	1	0

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	1	1
悪化	3	2	0

来期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	1
悪化	2	1	1

資金繰りは悪化している。

(5) 採算（経常利益）

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	1	2	1
悪化	3	1	0

来期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	1
悪化	3	2	1

採算は悪化している。

(6) 業況（自社）

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	1	2	1
悪化	2	1	1

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	1
悪化	2	1	0

来期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	1
悪化	2	1	1

今期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	1	1
悪化	3	1	1

業況も悪化している。

(6) 小括

採算が悪化し、資金繰りが厳しくなっているという結果、業況は悪化しているといえるであろう。物価高で利用者が減少しているとの声があった。このように、需要の停滞が今後の問題点となる可能性がある。

2-4 小売業14社

客数や客単価が減少し、売上が減少している

(1) 売上額

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	1	1	3
減少	8	6	7

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	1	2	2
減少	7	5	6

来期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	1	2	2
減少	7	5	6

売上額は減少傾向にある。

(2) 客単価

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	2	3	3
減少	3	3	3

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	3	2	2
減少	5	3	2

来期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	3	2	2
減少	4	3	3

客単価も減少傾向にある。

(3) 客数

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	1	1	2
減少	5	6	6

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	1	1	0
減少	6	4	6

来期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	1	2	2
減少	4	4	6

客数も減少傾向にある、

(4) 資金繰り

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	1	2	0
悪化	3	1	2

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	1	2	0
悪化	2	1	2

来期	今回の調査	前1回の調査	前々回の調査
好転	1	1	1
悪化	3	3	3

前回調査時と比べ、前年同期、前期ともに悪化している。

(5) 採算（経常利益）

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	2	1	1
悪化	4	4	4

来期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	2	1	1

悪化	4	5	4
----	---	---	---

悪化傾向にやや歯止めがかかっている。

(6) 業況（自社）

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	2	1	1
悪化	2	3	4

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	2	2	0
悪化	1	1	4

来期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	2	1	1
悪化	2	3	5

今期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	1	1	1
悪化	3	4	5

業況はやや好転している。

(7) 小括

全体的には、採算の悪化傾向がおさまり、業況はやや好転している。しかし、仕入価格の上昇を問題点としてあげる企業がほとんどで、中には仕入価格が昨年に比べて2倍に上がっているとの指摘があった。人件費も同様である。他の業種と同じく、消費者のニーズの変化により、消費者の購買パターンが変化してきていることを問題点としてあげる企業が多い。

2-5 建設業 8社

受注額が減少しており、採算も悪化傾向にある

(1) 完成工事額

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	1	1	1
減少	2	3	3

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	2	1	1
減少	2	1	3

来季	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	0	1	1
減少	4	2	4

前年と比べると改善傾向にあったが、来期の見通しが悪いと回答した企業が増えている。

## (2) 資金繰り

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	0
悪化	1	1	0

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	0
悪化	1	1	0

来期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	0
悪化	1	2	2

前回調査と特に変化はない。

## (2) 受注額

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	0	2	3
減少	4	1	2

来季	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	0	1	1
減少	5	2	1

前回調査と比べ、著しく悪化している。

## (3) 材料仕入単価

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	5	4	4
減少	0	0	0

来季	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	4	4	5
減少	0	0	0

依然として増加傾向にある。

#### (4) 採算（経常利益）

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	1	0	1
悪化	3	1	1

来季	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	1
悪化	2	2	2

前年同期と比べて悪化している。

#### (5) 業況

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	1
悪化	2	1	1

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	1
悪化	1	1	1

来季	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	1	1	1
悪化	1	1	3

今期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	1	1	0
悪化	1	0	4

業況は前回調査時と比べてやや悪化しているものの、大きな変化はない

といえる。

(6) 小括

前回調査時と比べると、受注額が大きく悪化し、採算が悪化していることが懸念材料としてあげられる。消費者の考え方の変化により、従来の習慣に基づき売れていた商品が売れなくなっているとの声があった。

2-6 製造業 12社

資金繰りが悪化している企業が増えている

(1) 売上額

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	2	0	3
減少	6	8	4

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	4	0	5
減少	3	8	1

来季	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	1	0	2
減少	7	4	5

前回調査時と異なり、売上額は増加傾向にあるが、来期の見通しは悪化している。

(2) 売上単価

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	0	0	4
減少	1	2	0

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	0	0	3
減少	1	3	0

来季	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
----	-------	-------	--------

増加	0	0	2
減少	3	2	1

引き続き減少傾向にある。

(3) 売上数量

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	1	0	4
減少	6	7	4

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	3	0	5
減少	3	6	1

来季	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
増加	0	0	4
減少	7	5	2

著しく減少した前回調査時と比べると改善しているが、来期の見通しは減少すると回答した企業が増えている。

(4) 資金繰り

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	0
悪化	6	3	2

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	0
悪化	5	4	2

来季	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	0
悪化	5	3	3

やや悪化していた前回調査時と比べ、さらに悪化しているといえる。

(5) 採算（経常利益）

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	1

悪化	9	7	3
----	---	---	---

来季	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	2
悪化	2	6	3

前年同期と比べさらに悪化しているが、来期は好転すると回答する企業が前回調査時より増えている。

#### (6) 業況（自社）

前年同期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	0	1
悪化	7	9	6

前期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	0	2	1
悪化	3	7	4

来期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	1	1	2
悪化	4	8	4

今期	今回の調査	前回の調査	前々回の調査
好転	2	1	2
悪化	1	6	4

今期は好転したと回答する企業が増えるなど改善傾向にあるが、前年同期と比べ悪化していると回答した企業が依然多い。

#### (7) 小括

業況はやや改善傾向にあるものの、依然として採算が改善せず、資金繰りが悪化しているといえる。原材料価格の高騰に加え、需要の停滞を問題点としてあげる企業が多い。製品ニーズの変化が大きく、従来型の商品に関しては、差別化などの努力をしても結果に結びつかないと回答する企業があった。他にも、利益率の良い仕事が出てきたが、安定した発注には結びつかないと回答する企業があった。

### 3 総括

今回の調査でも、材料費や仕入れ価格の高騰を企業の問題点としている企業が多い。業況に関しては改善している業種はあるものの、好調な大企業とは異なった景況感といえよう。高市内閣発足後、積極財政政策をとるものの、財政悪化の懸念から円安が進んでいることから、まだ当分はこの問題が継続すると考えられる。そして、今回の調査では、消費者ニーズの変化に対する不安が見受けられた。年末年始のイベントで消費が刺激されるというパターンが通用しなくなっているのではないかとの意見もあり、消費者ニーズへの対応が問われている。

今回の衆院選においては、消費税の今後が争点となっている。自民党も、食料品の消費税を2年限定でゼロにするための検討を「加速する」との公約を盛り込んでいる。この争点については、店内飲食を行う外食産業から、外食控えが進むのではないかとの懸念が指摘されている。このほかにも、日中関係の悪化により、中国の輸出規制により経済に悪影響が生じる可能性や、観光業などのインバウンド業種に悪影響がある可能性が懸念されている。そして、半導体不足による車両等の生産停滞により通期予想を見直す企業もあるなど、中小企業を取り巻く経済情勢の変化は激しく、時々に応じた対応が要求されている。

以上